東京検疫所新型インフルエンザ発生時の訓練

(公社)東京都ペストコントロール協会　理事・技術委員長　谷川　力

本年より東京港保健衛生管理運営協議会の委嘱を受け、本協議会(東京都ペストコントロール協会として参加)および千葉港保健衛生管理運営協議会(日本ペストコントロール協会として参加)が開催された。研修は新型インフルエンザ発生時の対応手順や個人防護具の脱着訓練である。

東京港保健衛生管理運営協議会では検疫所医師をはじめ、検疫官の連絡の動きなどを学んだ(図)。訓練は検疫所を中心に、警視庁・消防庁(救急車)等の役割について、2019年11月27～28日に行われた。まさに今回の新型コロナウイルス感染症の対応フローが、そのまま役に立つような訓練であった(図)。東京検疫所の管轄は神奈川県川崎港から、千葉県木更津港まで含まれる。それぞれ川崎港、千葉港(木更津港)は別に保健衛生管理運営協議会がある。

今回は千葉港の保健衛生管理運営協議会の訓練(2020年1月31日)にも参加した。千葉港の訓練では実際の海上保安庁の船を利用し、感染患者をトランスバックに収容し搬送した(写真)。また、清拭など消毒訓練、個人防護具の着脱訓練も行った。

今回、新型インフルエンザ感染者対応訓練を経験したことは、現在我々が闘っている新型コロナウイルス感染症対応での参考になったことは言うまでもない。

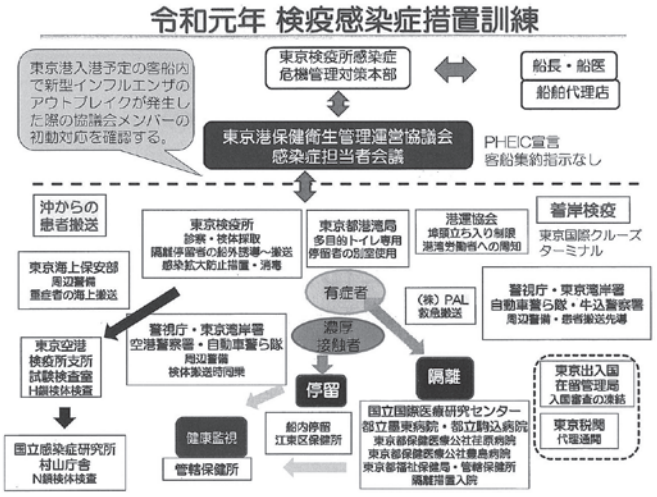

図　検疫感染症措置訓練連絡図

写真　船上でのトランスバックを利用した新型インフルエンザ対応訓練